

## 2022年度 施設内評価

■実施期間…2023年3月20日～3月31日

■回答数……14件

\*各設問に対し、できている5点 どちらかといえばできている4点

どちらもとれない・わからない3点 やや不十分2点 不十分1点として平均点を算出

	平均
1 園の保育方針を理解している	4.3
2 保育の「ねらい」や「内容」を保護者に分かるように説明できる	4.0
3 子ども一人一人のありのままの姿を受け入れようとしている	4.4
4 子ども一人一人の発達状況と置かれた事情を理解し、保育を行っている	4.4
5 保育の主役は子どもであることを常に心に留めている	4.6
6 子どもに分かりやすい言葉使いで、穏やかに話をしている	4.3
7 自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情を汲み取ろうとしている	4.5
8 積極的に子どもと関わり遊んでいる	4.7
9 子どもの病気やアレルギーについて、丁寧に確認・対応を行っている	4.5
10 子どもの様子を観察し、毎日のマッサージを丁寧に行っている	4.3
11 子どもが残さず食べることを強制したり、偏食をなおそうと叱ったりはしない	4.5
12 日々の活動の中で自然と歌を口ずさむよう心掛けている	4.4
13 日々の活動の中で、数や量にふれる機会を作っている	3.9
14 笑顔や気持ちの良い言葉がけを心掛けている	4.6
15 「保護者の子育てを支援する」という役割を常に意識している	4.2
16 保護者の子育てに対する不安や悩みを受け止め、気持ちに寄り添って助言、援助をしている	4.1
17 保護者からの相談内容を、園長・主任に相談している	4.4
18 連絡ノートやお迎えの際には、園での子どもの様子や気持ちを丁寧に伝えるようにしている	4.5
19 相談は記録し、継続的な支援をしている	4.0
20 子どもの健康状態を日々把握し、保育をしている	4.5
21 子どもの睡眠や生活など保護者への啓発に努めている	4.1
22 子どもが危険な場所や遊びが分かり、安全に気を付けて行動するよう働きかけている	4.4
23 目標を持ち保育を行い、保育計画が適切であったか振り返り、改善をしている	4.2
24 子どもの様子や自分の保育実践について、同僚や主任、園長と話をするようにしている	4.2
25 職場で、あたたかい人間関係を作るよう言動に配慮している	4.4
26 職務上知り得た子どもに関する情報について、家族や友人にも話さないようにしている	4.9
27 保育や障害に関する本を読むなど、知識や技術の向上に努めていますか	3.7
28 自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている	4.4
総合	4.3

評価の点数に関しては、あくまでそれぞれ自身を振り返った自己評価のため、向上心が高い場合、自身に厳しい場合は低い点数になる傾向があり、点数自体に大きな意味はないという前提の上での話となるが、昨年一番点数が低く、また次年度取り組みたいことにもよく取り上げられていた「12.活動の中で自然と歌を口ずさむよう心掛けている」が昨年度3.6点から、今年度は4.4点と上がっており、「歌と共にある暮らし」が前年度より各々実践できたのではないかと思われる。開園して5年経ち、少しずつさくらさくらんぼで歌われる季節の歌、良質の歌、といったものが職員にも浸透していつている様子が見られる。このように自身で自己点検し改善を続ける姿勢こそが、子ども達に見せたい大人の背中でもあり、大人は子どものロールモデルとの観点からも、このような向上心は大切にしていきたい。

## 食の意欲の少ない子への配慮、対応

### 1. 活動量

食べれる身体作り。無理強いせず、食べれたことを褒め、意欲につなげる  
活動を多めにし、おなかをすかせて給食に進めている  
身体を動かし、おなかをすかせるようにしている  
活動量を保障し、おなかがすいた、給食を食べたい、という感覚を大切にしたい  
活動内容を考え、食べられる体づくりを心掛ける

### 2. 量の調整

配膳の量を減らして、完食できる喜びを味わえるようにしている。  
様子を見ながら量を減らしたりしている  
初めから量を調節するなど、無理なく進めるようにしている。  
自分が食べられる量をつぐよう声掛け  
量を調節して少しでも食べられると褒めて自信となるようにする

### 3. 雰囲気作り

一緒に同じものを食べて「美味しいね」と声掛けしている  
食事の時間が楽しめる環境作り  
大人と一緒に食べておいしさを伝える

### 4. 家庭との連携

保護者との連絡を密に行った。  
家での様子を聞くなど、家庭と連携を取る  
家庭での様子、食事の前のおやつの状態、時間を聞き、様子を見て調整する

### 5. 興味・体験・その他

食べることを大切に保育を行ったことで、食への意欲が高く、新入園児への刺激となった。  
たくあん作り、やぜうま作り、野イチゴ摘みや野菜の水やりなど自らの手で体験することが意欲に繋がるとしています  
少量でもいいので色々な味・食材に興味を持てるよう「カリって音がしたね」「もぐもぐしたらおいしいね」など大人も一緒に食べてみる  
規則正しい生活をし、身体を動かし、おなかをすかせ、楽しい雰囲気を作り、声掛けし、五感を満たす環境で食事ができるよう、ほめたり配慮する

## 勉強のため読んだ本

ヒトが人間になる	子どもが育つ魔法のことば
発達障害と呼ばないで	生物の進化に学ぶ乳幼児期の子育て
さくらさくらんぼの障害児保育	リズム遊びが脳を育む
絵で見る斎藤公子のリズム遊び	
斎藤公子の保育論	
イラスト版斎藤公子さくらさくらんぼリズム遊び	
さくらさくらんぼのリズムとうた	
リズム運動と子どもの発達	
イラストで見る乳幼児の1日の生活の仕方	

## 今年度よく取り組めたこと

### ひとりひとりを大切に

- ・一人ひとりに寄り添い、少しでも自分で着脱や身の回りのことができるように声掛けし、見守っていった。最初はスムーズにいかないことも多かったが、どんどんできることが増え成長が見れうれしく思う。
- ・ひとりひとりに寄り添う
- ・クラスひとりひとりの子どもと向き合い、苦手なことも一緒に挑戦し、たくさんの初めての体験を通して信頼関係を築くことができた
- ・ひとつひとつ子どもと一緒に丁寧に生活すること
- ・子ども一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、その子自身が持っている力を十分伸ばしていけるような保育を心掛けた
- ・子どもと対等で、互いに信頼し仲良くする
- ・一人ひとりに向き合い、苦手なこと、弱いところがあったらどうしていけばいいか考えることができた。手立てを考えることで、一人一人のできることが増えたり、自信に繋がった。

### マッサージ

- ・朝のマッサージを丁寧にいき、身体を整える。
- ・ロールマット、柔軟、両性ハイなど
- ・ひとりひとりの成長に合わせたマッサージを行った

### 保護者との連携

- ・気になる子への対応を保護者と連携して行えた
- ・保護者との信頼関係の構築

### 生活

- ・身体を動かし、生活リズムを整えることを意識して関わられた
- ・生活のあり方や遊び、散歩など継続して大切に丁寧に行うことで一人ひとりがステップUPし、自分で考えて行動したり、発展させる姿が増えてきた
- ・歌をたくさん歌うよう心掛けた
- ・毎日の絵本、紙芝居の読み聞かせ

### 自己研鑽

- ・さくらさくらんぼ保育の理解を深めるため、本を読んだり話を聞いたりしている
- ・保育の組み立て方や見守り、自分の動きには特に気を付けて保育を行った
- ・保育士としての態度や観察力、リズムを覚えることなどががんばった

## やりたかったが不十分だったこと

### じっくり接する

- ・絵の話をじっくり聞く時間が取れなかった
- ・忙しいときは気持ちが焦り、子ども達に丁寧に向き合えていなかったため、忙しい時こそ落ち着いて保育をするよう心掛けます
- ・ひとりひとりにかかわる時間が十分とれなかった
- ・1人ひとりに寄り添って関わるように心掛けていたが、日々の保育に終われ十分に関われなかった
- ・行事に追われギリギリになってしまうことが多かったのもっと余裕をもった行動を心掛けたい。そうすることで、子ども達とより良い気持ちで関わっていけると思う。

### 歌

- ・季節の歌など全部覚えていないところがあった
- ・たくさんのおくらんぼ保育の歌があるが、新しい歌を覚えてもしばらくすると歌詞を忘れてしまったり間違えて覚えていたりすることがあり、しっかり覚えたい

### その他

- ・自宅での過ごし方について保護者さんに伝えること
- ・後半は職員配置の問題で、散歩に出かけられることが少なかった
- ・本をあまり読めず、知識を深められていない

## 来年度、特に取り組みたいこと

### 生活

- ・いっぱい散歩に行き、水、砂、泥の遊びもいっぱいさせてあげたい
- ・絵本の読み聞かせ、うた
- ・日々の生活を丁寧に言い、散歩や登山に出掛け、様々な経験や感情を味わえるようにする
- ・階段のぼり、登山
- ・ロールマットなど、さらに丁寧にマッサージを行っていききたい

### 保護者との連携

- ・保護者さんにリズムの楽しさ、意味などを子どもの姿と共に伝えていく
- ・保護者さんとの連携を取りながら信頼関係を築き、一人ひとりの心と身体の発達を促していけるよう日々の保育を丁寧に行う
- ・保護者さんとの関係を密にし、メディア、早寝早起きの大切さを伝えていきたい
- ・保護者さんとの信頼関係をしっかりと築き、子ども達のより良い育ちのためにノーメディアや早寝早起き朝ごはんをより一層伝えていきたいです

### 学び

- ・日常的にもっといろいろな歌を歌えるようになりたい
- ・子どもの育ちのためにもっともっと本を読み、沢山のことを吸収し、保育につなげたい
- ・本を読み込み、知識を深める

### 自身の在り方

- ・子どもにとって憧れられる大人であること
- ・ひとつひとつのリズムに対しての学年や個人に応じて要求する
- ・もっと1人1人の園児をよく理解し、責任を持ってその子に応じた保育ができるようになりたい